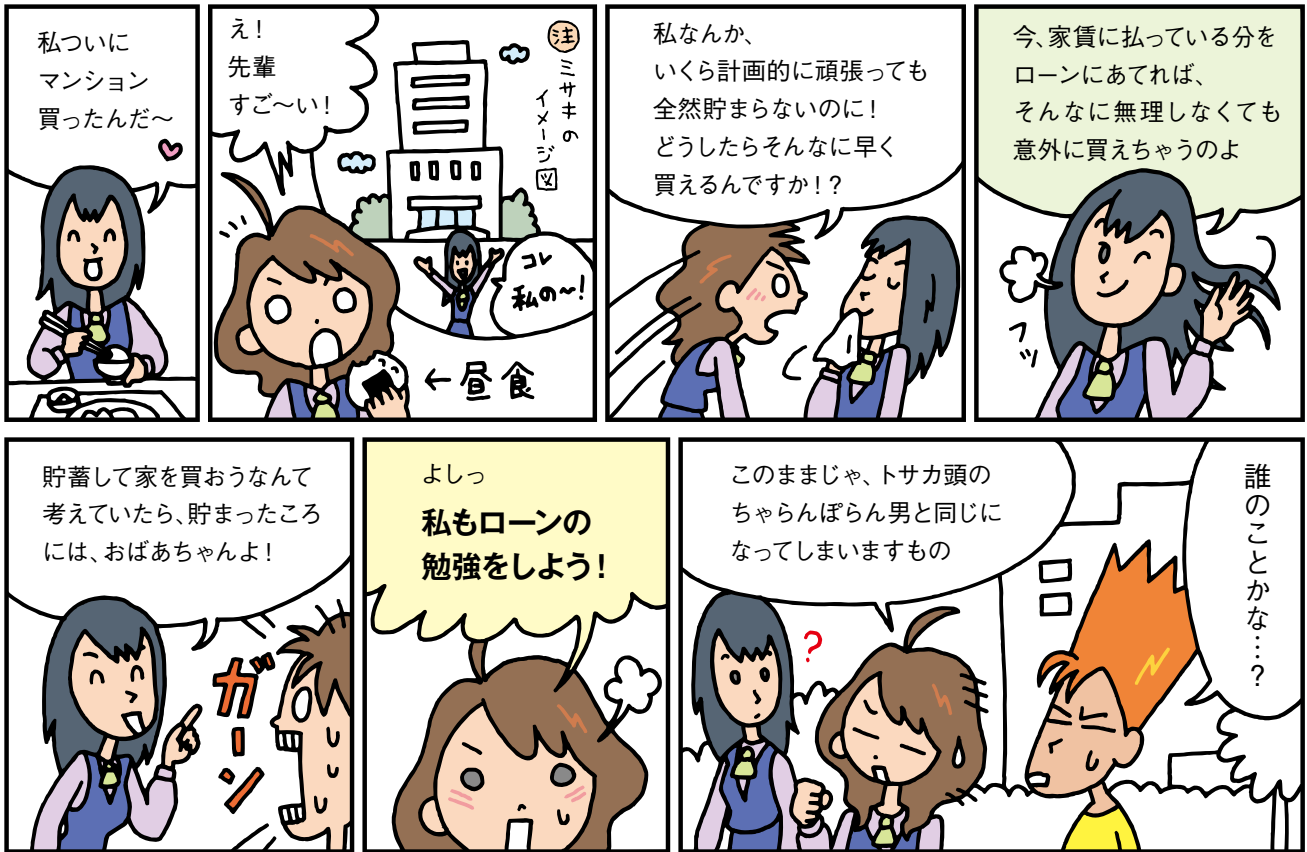


— お金を借りてコツコツ返すのがローン —



G1 ローンとは **お金が足りないときも、あきらめないで!**

ローンは、銀行などからお金を借りて、後から少しずつ返済する約束のことです。

日々の生活費は毎月の給与で計画的にまかなうことができても、一度にまとまったお金を用意するのは難しいものです。ローンを利用することで、必要なときに必要なものを手に入れることができるようになります。

DVDのレンタルなどは、借り賃を払って借りた品物をそのまま返せばよいのですが、ローンの場合は借りたお金は使ってしまうため、将来の収入から返済していくことになります。また、ローンにも借り賃である「金利(利息・利子)」がかかりますから、借りたお金よりも多い金額を返済することになります。

ローンを利用するときには、これから得る収入できちんと返済できるかどうかをよく検討し、自分の返済能力の範囲で計画的に利用することが大切です。

ローン(loan)

「貸す」という意味。一般的には「お金を貸す」意味で用いられている。「貸す」ことは立場を変えれば「借りる」とことと同じなので、ローンは「お金を借りる」という意味でも用いられている。

Q3 毎月75,000円ずつ預金するとします。3,600万円のマンションを全額自己資金だけで購入できるのは何年後ですか。金利は考えないものとします。

$$3,600万円 \div (75,000円 \times 12ヵ月) = (\quad) 年後$$

※マンション価格は、平成20年度フラット35利用者調査(住宅金融支援機構)の全国平均を参考にした

※預金額は、平成21年家計調査(総務省)より、世帯主が29歳以下の預貯金純増額を参考にした

※目標金額を貯めるための計算コーナーはこちら <http://www.zenginkyo.or.jp/> →使いこなす→お取引シミュレーション



G 2 ローン役割 貯めていては買い損なってしまう!

住宅などの高額なものを購入するためのお金を全額貯めるには、とても時間がかかります。貯めたお金を**頭金**にしてローンを利用して買うことで、全額貯めてから買うよりも早く家を手に入れることができ、そのぶん長くマイホームで暮らすことができるようになります。

また、進学費用は子どもの成長に合わせて必要な時期が決まるものですが、必ずしも思いどおりにお金が貯められるとは限りません。そのようなときにも、ローンを利用することで対応することもできます。

ローンは、長期的に少しずつ返済していくのが一般的です。これは家計支出の平均化につながり、長期的かつ計画的な生活設計を立てるうえで役立つこととなります。

国民経済的にみると、一定の消費需要を呼び起こすことにつながり、経済成長に貢献することにもつながります。

頭金

分割払いする場合などに、代金の一部として最初に支払う費用のこと(自己資金ともいう)。

金融機関

銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協など、免許を受けて預金・貸出・為替などの業務を行う機関のこと。保険会社、証券会社も広い意味では金融機関。
これに対して、貸金業法かしきんぎょうほうにもとづいて貸金業を営む業者のことを貸金業者という。消費者ローンを取り扱うクレジット会社、信販会社、消費者金融会社など。

Q4 10年後に3,600万円のマンションを購入するため、頭金・諸経費として800万円貯蓄することにしました。毎月いくら預金すればよいでしょうか。金利は考えないものとします。

$$800\text{万円} \div (10\text{年} \times 12\text{ヵ月}) = (\quad\quad\quad) \text{円}$$

※頭金目標額は、平成20年度フラット35利用者調査(住宅金融支援機構)のマンション購入者の手持ち金額の全国平均を参考にした
※目標金額を貯めるための計算コーナーはこちら <http://www.zenginkyo.or.jp/>→使いこなす→お取引シミュレーション

G 3 間接金融・直接金融

お金に余裕のあるところからお金を必要としているところへお金を融通することを「金融」といい、金融を行う会社のことを「金融機関」といいます。

●間接金融

銀行が個人などの預金者から預かったお金を元に、資金を必要としている企業などの借り手に貸すことです。銀行を通して間接的に貸し借りが行われることから、このように呼ばれています。

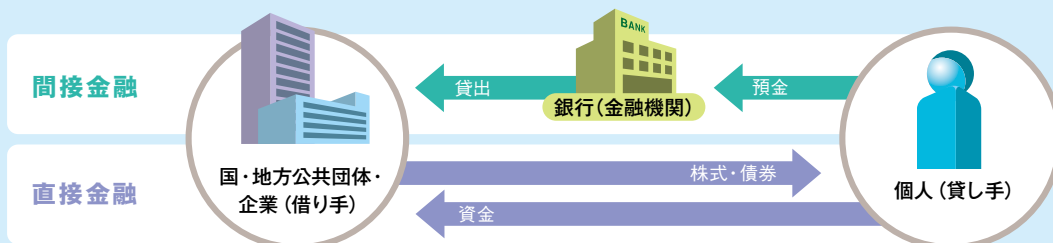
●直接金融

企業が株式・**債券**などを発行して、それを購入する個人などから直接お金を調達することです。国や地方公共団体なども債券を発行して資金を調達しています。

債券

国などが投資家から資金を調達するときに発行する「借入書」のようなもの。
国が発行する債券を国債、地方公共団体(都道府県や市区町村)が発行する債券を地方債、企業が発行する債券を社債という。
金利の支払いと満期に額面金額の返還が約束されている。

図C-1 間接金融と直接金融



G 4 ローンの種類 ライフプランにはローンも計算に入れておく！

ローンにはあらかじめ使いみちを限定したローンと、使いみちが自由なローンがあります。

●使いみちを限定したローン

自動車ローン、教育ローン、住宅ローンなどの目的に応じたローンがあります。住宅ローンなら土地や家の購入のように、借りるお金の使いみちは限定されています。

こうしたローンは、利用する際にそのつど**審査**を受けて「借入契約書」を取り交わす方式（証書貸付方式）です。

図C-2 主なローンの返済期間

住宅ローン	最長 35年
自動車ローン	最長 7年
教育ローン	最長 10年
フリーローン	5年から10年程度

※銀行によって異なります

●使いみちが自由なローン

代表的なものは「カードローン」です。カードローンは、あらかじめ決められた利用限度額（**極度額**）の範囲内ならいつでも何回でも借りることができる方式（**極度貸付方式**）です。カードローンの利用にあたっては、事前に審査が行われるのが一般的です。

借りる場合は、キャッシュカードと同様に、ローンカードを**ATM**に入れ、暗証番号と必要な金額を入力します（このような借入れ方法を「キャッシング」と呼ぶこともあります）。

借りるときも返すときも窓口に行く必要がなく、便利な仕組みですが、機械から出てくるお金は自分の預金ではなく、あくまでも他人から借りているお金だということを忘れてはいけません。

●住宅ローンの返済プラン

住宅ローンのように最長35年という長期間にわたって返済をしていく場合、途中で返済能力が変化していくことが想定されます。

例えば、昇給などで給与が増えたと、返済能力が上がります。反対に、景気の悪化や病気で休職することなどにより給与が減ると、返済能力は下がります。

また、子どものいる家庭では、子どもの教育費がかかる時期には、そのぶん返済能力が下がることになります。教育費用は進路などによっても異なりますが、すべて国公立の学校を選んでも、1人当りの教育費は数百万円以上かかるといわれています。子どもの数が2人なら費用は2倍に、3人なら3倍になります。

審査

ローンやクレジットの利用を認めるかどうかを判断すること。判断基準は銀行やクレジット会社によって異なるが、完済時の年齢、年収に対する返済額の割合（返済負担率）、勤続年数など複数の項目で判断する人が多い。

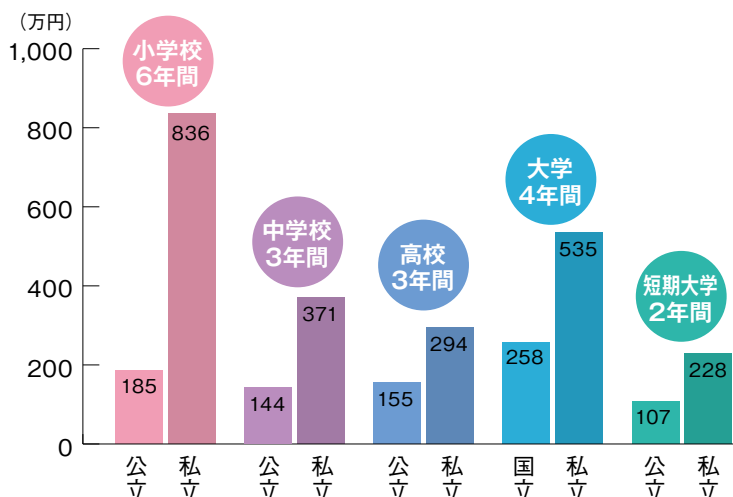
ATM (Automated Teller Machine)

現金自動預払機。銀行のほか、コンビニ、病院、駅などにも設置されており、預金の引き出しのほか、残高照会、入金（預け入れ）、通帳記入、振込やローンカードによる借入れなどができる。

銀行に設置されているものには外貨預金や税金等の払い込みなど多彩な機能がある場合が多い。



図C-3 子どもの教育費用



※資料（小中高）：文部科学省「子どもの学習費調査」（平成20年度）から作成
（大学、短期大学）：日本学生支援機構「学生生活調査」（平成20年度）から作成
※データは、公立高等学校の授業料無償化・高等学校等就学支援金制度実施以前のものです

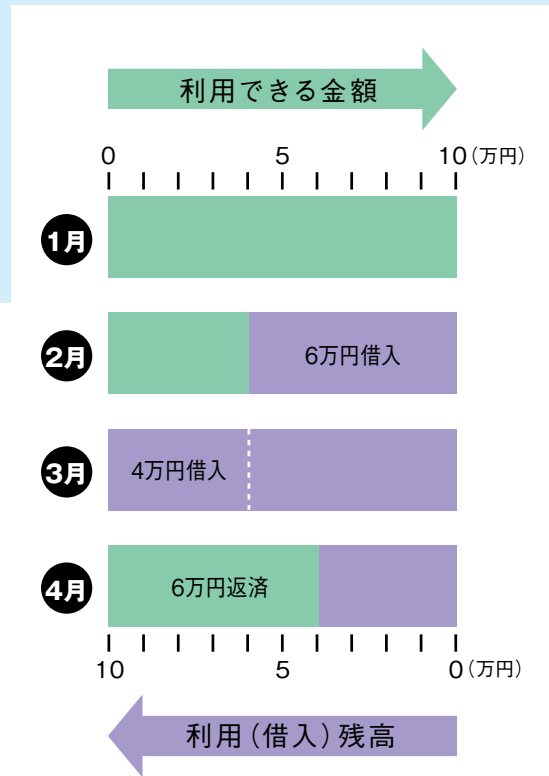
G 5 利用限度額

カードローンやクレジットカード(p13参照)などは、あらかじめ定めた利用限度額の範囲内なら、何回でも利用できるのがふつうです。利用できる金額は、利用限度額からまだ返済していない金額を差し引いた金額になります。

利用限度額は、信用状態(きちんと返済できているかなど)によって、引き上げられることがあります(引き下げられることもあります)。

- 1月 … 利用残高がゼロなので、利用限度額10万円まで利用できる。
- 2月 … 6万円利用したので、あと4万円まで利用できる。
- 3月 … さらに4万円利用し、利用限度額10万円まで利用しているので、これ以上利用できない。
- 4月 … 2月の利用分を返済し、利用残高が4万円になったので、6万円まで利用できるようになる。

図C-4 利用限度額のイメージ



Q5 利用限度額10万円のカードで5万円を借り、その後2万円を返済した場合には、あと何万円まで利用できるでしょうか。



“ローン”のポイント



- ローンは、お金を借りて、後から少しずつ返済する約束。
- ローンは、消費需要を呼び起こし、経済に影響を与える。
- お金を借りるときは、返済能力の範囲で、計画的に。

